

特許庁 ワンダーフォーゲル部

特許庁ワンダーフォーゲル部は、登山、ハイキングを中心に、街歩き、キャンプなど様々なアウトドア活動を行っているサークルです。

通常（コロナ前）は、近郊の山の日帰りハイキングから、宿泊して北アルプスや南アルプスなど少し遠くの山へ行ったり、夏には合宿として3泊程度の縦走を行ったり、長期休暇の取りやすい時期には、北海道や九州、沖縄などへ行ったりすることもあります。

山だけでなく、七福神巡りや、鉄道・モノレール等の沿線歩き、川歩き、話題となっているスポットがあるとそこへ行って周辺を歩いたりします。

また、キャンプ、バーベキュー、山菜採り、キノコ狩り、冬にはスノーハイクなども行っています。（以下、これらを「山行」といいます。）

月に1回、庁内の多目的室等に集まって例会を行い、実施した山行の報告をしたり、今後予定の山行の案内をしたり、「今度〇〇へ行きたいね。」など新しい山行を考えたりして、部員同士のコミュニケーションを図っています。

10名程度の役員で、部の運営（活動方針の決定、部員への連絡、会計、装備・記録の管理）を行っています。

山行は部員から自由にアイデアを出してもらって、様々な部員のニーズに応えられるようにしています。

3月には、食堂などを貸し切って総会を行っています。総会では一年間の山行のスライドを上映し、多くの部員が集まり、貴重な部員間の交流の場であり、また、部費徴収の場でもありました。

このような感じで活動をしていたのですが、2020年冬に始まった新型コロナの感染拡大により、いろいろと行動が制限されるようになってしまいました。

最初に直面したのは、総会をどうするかという問題です。

2月後半から、庁においても会合等の自粛が要請され、開催方法を見直さざるを得なくなりました。前述のとおり、総会は部員間の交流の場ですので、出来れば実施したい。当初は、2週間位すれば収まるのでは、という今思えば超楽観的な見込みもあり、とりあえず3月の終わりに日時を設定して様子を見ることにしました。

ところが、一向に収まる気配はなく、年度内に行わなければならない議決事項の承認だけメールで行い、5月から6月あたりに、別途部員が集まれる場をセットしようという方針になりました。（結局これは、実現できませんでした・・・）

4月に入り、例年ですと、新歓ハイキングを行って新人勧誘を行っているのですが、この年は、4月から緊急事態宣言が発令され、それどころではありませんでした。

それでも、宣言がいつ開けるか、感染がいつ収まるのか予測しつつ、候補日をいくつか設定して一応計画だけは立てておきました。

そして、少し収まった7月に高尾山新歓ハイキングを実施することができました。



高尾山の「三密の道の苔抜け門」。コロナ前からあった。

ここで、高尾山新歓ハイキングが実施できたのはとてもラッキーで、この直後から第2波が始まり、「これは結構長引くのでは・・・」という空気が濃くなりました。

収まるまで活動を休止しては、という意見もありましたが、全く活動しない状態で1年を過ごす、新型コロナの収束後に新たな活動を再開するのが困難になることから、できるだけ従前通りの活動を続ける方向で行うことになりました。

政府、東京都そして行き先の自治体の方針や規制等を考慮した活動指針（遠方へは行かない、距離をあけて歩く、食事会・飲み会は行わない等）を作成して、それに沿って計画を立て、実施できるなら実施する、できないなら、延期又は中止するという形で、できる範囲での活動を続けるべく努めました。

おかげで、感染状況が少し収まっていた10月から12月にかけて、街歩きなど、少しですが活動ができました。



2020年11月 多摩モノレール歩きの終点上北台駅(上)と、ホームから見えた富士山のシルエット(下)

当部は、前述のとおり毎月例会を行っていますが、会合の自粛が要請され、リアルでの開催が難しいことから、オンライン（Zoom）で開催することになりました。

ただ、勤務時間の相違に加えて、出勤の人、テレワークの人がいて、時間帯の設定が難しく、オンラ

インなら土日でもいいのではということで、多くの人が参加できる曜日、時間帯が検討されました。

ところがオンラインだと参加率が悪く、どうしたら参加率を上げられるかが検討されました。

「コロナでもワゲルは楽しい」を合い言葉に、写真や資料の提示がしやすいというオンラインの特性を生かして、過去の山行の体験談を写真を提示して紹介するなど、多くの人を楽しめるよう工夫をしました。

オンラインにはメリットもあり、外出先から参加してくれた部員もいました。

また、海外に留学中の部員が、海外で行った山行の紹介をしてくれるということもありました。

部費については、活動が制限されているので、徴収しない、あるいは、減額してもよいのではということが議論になりました。

結局、2020年はほとんど活動ができなかったので徴収しないことにしました。

2021年は、後半結構活動ができたので、徴収することにしました。

ただ、集める手段が問題になりました。例年部費は、上述のように総会や例会で集めたり、山行で集めたり、役員が庁内を回って集めたりしていたのですが、活動も出勤日も限られ、部員同士がリアルで会う機会が激減してしまったからです。

振り込みによる部費の支払いはこれまでも可能だったのですが、手数料が割高であることから、他に方法はないか検討し、PayPayによる集金を導入することにしました。

PayPayは集金以外にもお祝い金の支払いにも使いました。

結婚した部員がいると、例会でお祝い金を渡しているのですが、リアルで集まれないとなると、渡すことができません。そこで、オンライン例会の場で、PayPayにより支払い、受け取りを行うようにしたのでした。

2021年は9月30日まで、ほとんど緊急事態宣言又はまん延防止等重点措置下にあり、この間は山行がほとんどできませんでした。

しかし、前述のとおり、計画だけは立てておいて、実施できるようになったらいつでも実施できるよう

に準備はしておきました。

そして、10月に第5波が収束し、まん延防止等重点措置が開けましたので、活動を再開しました。

またすぐに第6波が来るかもしれない、今のうちということで、10月から翌年1月中旬再びまん延防止等重点措置が出るまでの間に、日帰りハイキングが中心ですが13の山行を実施することができました。

春にできなかった新歓は、2年目の人たちにも声を掛け、10月に高尾山、11月に鎌倉と2回実施し、大盛況となりました。おかげで、この年は6名の新入部員がありました。

例会は、リアル+オンラインのハイブリッド形式で行いました。

2022年は、1月中旬から3月中旬までまん延防止等重点措置が発令されていたので、再び山行ができなくなりました。総会はオンラインで行いましたが、この一年の山行の様子を写真を共有して紹介するという企画を設けたところ、大勢の部員の参加の下、盛大に行うことができました。

4月には、まん延防止等重点措置が開けたので、5月に新歓高尾山ハイキングを企画して、新人に呼びかけたところ、多くの新人に参加していただくことができました。

3年目ともなると、山行は感染に留意しつつ可能な範囲で行い、例会は、リアル+オンラインのハイブリッドで行うというやり方が定着してきました。

徐々に通常の活動に戻れるかな、と思っていたところ、現在（この原稿を書いている7月中旬）、第7波が始まってしまいました。

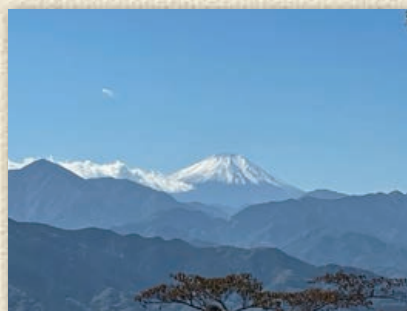
新型コロナが完全に収束するにはまだ時間がかかりそうです。早く収束し、従前のような活動ができることを期待していますが、テレワークは今後も続くでしょうから、職場での職員同士のコミュニケーションの機会は減ってしまいそうです。こうした中で、サークル活動の果たす役割は益々重要になってくるでしょうから、それに応えられるよう、活動を工夫していきたいと思います。

特許庁ワンダーフォーゲル部に興味を持たれた方は、是非、ご連絡下さい。

下記、QRコード、URLで行事予定がご覧になれます。また、問い合わせ先メールアドレスも掲載してあります。

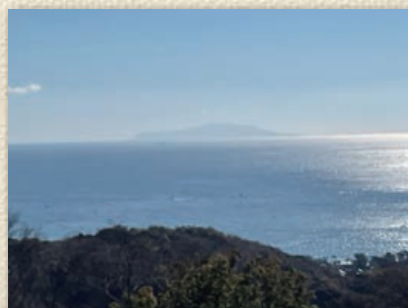
連絡先

<http://twv.sakura.ne.jp/>



2021年10月 宣言が開け、久しぶりに実施できた山行（高尾山新歓ハイキング）で、山頂から見た富士山。この日は天気も最高だった。

執筆者：鈴木 充



2021年12月 湘南平から見た大島



2022年4月雪頭ヶ岳・鬼ヶ岳山行（西湖いやしの里根場にて）